

今回の企画にあたって

やめての会運営委員会

私たちやめての会は、2024年2月に佐野さんのお話を聞きする会を持ち、インクルーシブについてようやく一歩を踏み出すことができました。

この流れを基本にしながら、今まで小さな集まりを積み重ねてきています。

前回は、参院選直前の時期にあって、「尊厳死」法制化の危険性が急浮上し緊迫した状況の中での集会となりました。

参院選が終わり、「尊厳死」法制化は一旦空騒ぎとして治まったものの、これを主張していた参政党や国民民主党、そして今回高市自民党と組んで与党として動き出したあの維新も、「尊厳死」法制化には強い意欲を持っています。終末期医療切り捨て、高齢者や難病・障害者に対する制度切り捨て等々。

また超党派の国会議員約110名でつくっている「終末期における本人意思の尊重を考える議員連盟」が存在しています。厚生労働省も、2007年に「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」を公表し、2018年には改悪「ACP(アドバンスケアプランニング)」を提示し、さらなる改悪をめざしています。

さらに、公明党に捨てられた自民党はさらに右に行く維新と手を組み、それだけでなく参政党・NHK党・保守党までも抱きこみ、軍事費倍増計画を2年前倒しで行おうとしています。この政治状況を考えると、今まで以上に医療社会保障と福祉や介護に向けて大きな攻撃が押し寄せてくるのではないかと非常に強く危惧しています。「尊厳死」法制化案もいつ提出されるかもしれない…私たちはどのようにこれに抗うことが出来るのか、緊張感をもって備えていきたいと考えています。

改めて、私たちの会のスタンスは、以下の内容です。

「尊厳死」法制化反対！

——尊厳は生と一体！死に「尊厳」を冠するな！

——「尊厳死」は対象を特定の人に対するものでない。優生思想と表裏一体であり、差別・排外主義・排除の思想と結びついている。

——財源論と闘う。戦争国家化こそ問題である。武器より医療、武器より福祉だ。

今回は「**私たちは普通に生きていきたい**」という素直な気持ちでこの企画をしました。普通に生きる…それはごくごく当たり前のこと、**当然の権利**なのです。「尊厳死ではなく、**生きるということに注目した運動**を創っていきたいと思います。

インクルーシブによって、ともに生きる、ともに考える、ともに闘う、そのような雰囲気を作り出していきましょう。

今日は、ALS 患者さんのご家族として介護しておられた北田さんに来ていただきました。現在は介護事業所を立ち上げられ、さまざまご苦労もあるようですが、ご家族として、インクルーシブへの具体的なお話を頂きたいと思います。

内外の諸情勢は非常に厳しい、そしてますます厳しくなるかもしれないと思いますが、他方では私たちは大きなを感じてきています。それはここに集まってくれているみなさんからのが、回を重ねるごとに強まり、深まり、それぞれの内からのエネルギーとしてまわりの人々を巻き込む力に昇華していることを感じるからです。

☆彌 内なるエネルギーを感じ背中から推されている気持ち。

インクルーシブ Talk&Movement☆やめての会の、Talk ここで議論し、それを Movement まわりに広げ運動を広げていきたいと思っています。

一緒に Movement していきましょう。